

なのはな米1等比率95%以上!!

今年も高品質で美味しい「なのはな米」を目指し、高温に打ち勝つ米づくりに努めましょう。
コシヒカリは5月15日を中心とした田植えを基本とし、田植えに合わせた播種等の育苗作業で健全な苗づくりに努めましょう。

1. コシヒカリの育苗計画

消毒	浸種	播種	田植え	(育苗日数)	出穂期
4/7 (火)	4/8 (水)	4/19 (日)	5/10 (日)	(21日)	8/1頃
4/15 (水)	4/16 (木)	4/25 (土)	5/15 (金)	(20日)	8/4頃
4/23 (木)	4/24 (金)	5/2 (土)	5/20 (水)	(18日)	8/7頃

近年は育苗期間が高温で推移しています。
苗の徒長や老化防止のため、播種から田植えまでの育苗日数は20日間以内を目安としましょう。



2. 育苗スケジュールと作業内容

※細菌性病害対策として、育苗期間を通じて目安温度より高温にならないよう注意《換気の徹底を》

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント																		
4/15	比重選 種子消毒	水温 10℃以上を確保 (12℃が最適)	<p>①比重選で種籾を厳選。～病気や発芽不揃いをしっかり予防～ 硫安による発芽障害を防ぐため、比重選した種籾は水洗いを行う。</p> <p>②種子消毒は必ず化学農薬で消毒する。 モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬</p> <p>種子消毒のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種籾10kgに対し、水20ℓ、薬剤100gの割合とする。 ・水和剤は溶けにくいので、水は15～20℃のぬるま湯で必要量を準備し、よくかき混ぜる。 ・24時間浸漬中は1～2回袋を動かす。 ・消毒液の使用は1回限り。 																		
4/16	浸種	水温 10～15℃を確保 ※早生・中生品種の浸種の目安 水温 浸種日数 10℃ → 10～12日間 15℃ → 7～8日間	<p>③浸種の開始を早めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水温×日数=積算温度100～120℃程度を目安とする。 ・※浸種期間の後半になったら必ず芽の動きを確認し、動きがあれば浸種を終了する。 ・10～15℃の水温と十分な水量を確保する。催芽を揃えるには、浸種を開始した初日の水温確保(12～13℃)が重要です。 ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ。 ・水温が上がり過ぎないように日光が直接当たらない場所(日かげ等)に設置する。 ・水温が高くなり芽が伸びる恐れがある場合は、冷たい水に浸ける。 																		
4/24	催芽	育苗器温度 28～30℃で 20～24時間	<p>④芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・均一に催芽するために1日2～3回袋を反転させる。 ・均一に播種するために種籾の水切り(脱水)は十分に行う。(籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う。) 																		
4/25	播種 出芽	育苗器温度 30℃で2～3日	<p>⑤播種量はうす播きが基本。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かん水量は、床土の表面に水がにじみ出る程度とする。 ・厚播き、ムラ播きに注意する。 <p>⑥育苗器温度は30℃が適温。こまめにチェック。 事前にサーモスタットの温度計測が正確なのか確認する。</p>																		
4/28	搬出 緑化	ハウス内温度 昼: 25℃以下 夜: 10℃以上	<p>⑦芽の長さが1cmに揃ったら搬出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬出時には、覆土を落ち着かせるため、必ずかん水する。 ・緑化後は速やかに被覆資材をはずす。 ・育苗ハウスのビニールを新しくした場合、光の透過率が高いので注意する。 																		
4/30	硬化		<p>⑧かん水は朝にたっぷりと行い、日中は床土の乾きに応じて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床土の種類によって水持ちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意。 ・田植えの7～10日前からは昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす。 																		
5/15	田植え		<p>○育苗期間中の病害対策</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗、苗立枯病</td> <td>タチガレエースM液剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>発芽後</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																
ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回																

○比重選液の作り方の目安

種籾	比重	硫安 (水10.0ℓに)
もち	1.08	1.5kg
うるち	1.13	2.5kg



○催芽の目安
ハト胸～2mmまで



低温が予想される場合は搬出を見送るか、搬出時のかん水はせずに被覆資材で保温に努める。

葉焼け注意!

かん水に用水を用いる場合は、ムレ苗に注意!

春の土づくり

高温に打ち勝つ米づくりの土台となるのが土づくりです。

管内で実施した土壌診断では、約6割のほ場で珪酸やカリが不足しています(図1)。

土づくり資材の施用や深耕による「春の土づくり」で、地力の向上に努めましょう。

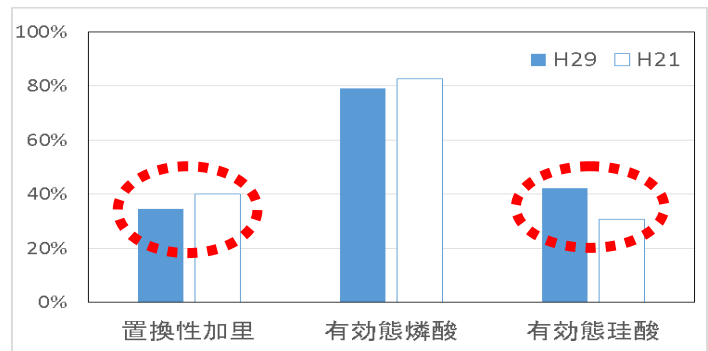


図1 土壌改良目標値を達成したほ場の割合
(JAなのはな管内 H29:159 地点 H21:150 地点調査)

1. 土づくり資材の施用

※昨秋施用していないほ場は、必ず施用しましょう。

- ・珪酸は茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があり、米品質が向上します(図2)。耕起前に珪酸石灰等の珪酸質資材を確実に施用しましょう(表1)。
- ・腐植が少ない砂質や砂壤土等のほ場では、発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用し、地力の維持や向上(カリ等の補給効果有り)に努めましょう。

表1 主な土づくり資材の施用の目安

資材名	施用量(10a 当たり)
珪酸石灰	100～200kg
シリカロマン	60～100kg
シンキョーライトP	40～60kg
発酵鶏ふん	75～100kg (春施用)

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a 減肥する。

(例) なのはな一発基肥1号(窒素成分21%)

40kg/10a 施用の場合、35kg～30kg/10a 程度に減肥する。

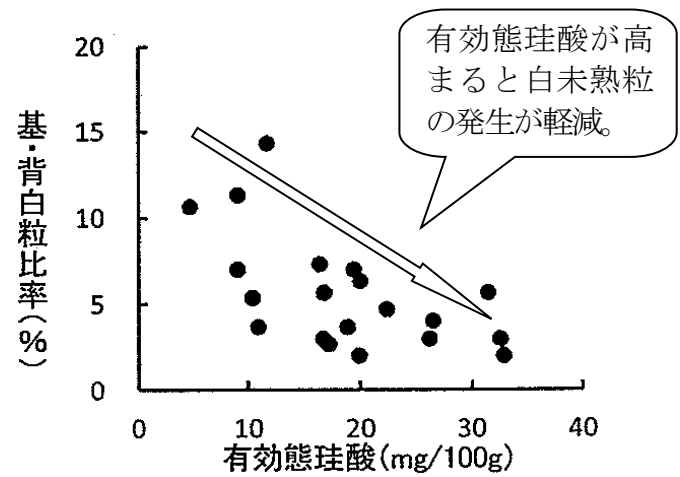
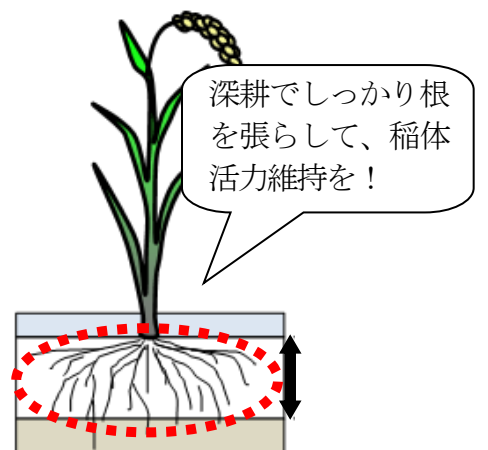


図2 有効態珪酸と基・背白粒比率の関係
(H25 県土壌分析結果)

2. 深耕

- ・作土層を深くすると、根圏が広がり、深く伸びた根が収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質が向上します。
- ・耕起は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さ20cmを目標に最低でも15cm以上確保しましょう。



春の農作業安全運動 ー4月1日～5月31日ー

「ヒヤリ」「ハッと」した経験を農作業事故の未然防止に役立てましょう!

農場や用水路の危険個所の把握・改善や余裕をもった作業計画を立てましょう。

なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています。

情報提供内容

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報と災害防止対策
- ・緊急的な管理情報
- ・その他必要と思われる情報

【提供情報例】

生育状況は、草丈、葉齢は平年並みで茎数は、平年より多くなっています。
コシヒカリの幼穂形成期は、平年並みの7月11日頃と見込まれます。
今後の管理は、しばらくは平年より気温が高くなることから水管理を徹底しましょう。

営農情報提供サービスへの登録はこちらから



http://argo-navi.net/ja/mb_login.php